

E-メンバーからの意見⑩(2月7日現在提出分)

平成 23 年 2 月 10 日 公共施設再配置計画担当作成

No. 1 男性 49 歳

いよいよ、公共施設再配置計画策定に関わる委員会が最終回を迎えることになりました。まずは、委員会の皆様及び、多方面で尽力された関係スタッフの皆様には大変にお疲れさまと言いたと思います。

この委員会によって明らかになった秦野市の現状は、決して当市だけのことではなく、これからの「縮んでいく日本」にあって、どこの自治体でも抱えている潜在的な問題だと思えますが、それについて秦野市が問題提起をしてベンチマーク的な役割を果たした意味は非常に大きいと思っています。

ただ、ようやく入口の羅針盤が示されたということで、これからはむしろ重要なステップと認識しています。

ですが、区切りの意味の委員会最終回ということで、「E-メンバー制度について」「今後の再配置の方向性について」などの意見を簡単に述べたいと思います。

『E-メンバーの制度について』

メンバー自体は 10 名ほど選任されましたが、残念ながら委員会各回の投稿はほとんど見受けられませんでした。

以前にも意見したと思いますが、まず E-メンバーたる市民がついていけるほどの平易なテーマではなく、入口からいきなり難解であった点が、意見しづらい環境を作ってしまったのではないかと思います。

事実、各過程で出される資料を読み込んで理解するには、素人にとっては相当の労力と時間が必要で、ハードルが高かった気がします。

ですが、途中でのアンケートの投げかけに対しては、それなりの意見がみられましたから、投げかけ方の工夫次第では、もっと活発な E-メンバーの意見が出たのではないかと思います。

E-メンバーの制度自体は、行政と市民との協働参画機会の間口を広げる意味でも、また（もっぱら）部署の都合や事情によって市民委員に選出され得ない人にとっても有意義な仕組みだと思いますが、やはり「テーマの難易性・専門性をいかにみ砕いて提示して意見してもらう工夫をするか」にかかっているような気がします。

それとメンバーの意見がどこまで反映されるのかについては、今回のケースでは、“策定に当たって参考にします”という回答が多く、果た

して意見を言ったところでどこまで受け止めてもらえるのかが不透明な気がしました。

さらに計画の中では、一部の公共施設について収斂が足りず、タブーに踏み込んでいないものもありました。こういうドラスティックな改革は聖域を設けてはいけないと思いますが、やはり過去のしがらみに縛られていることもあって、市民が指摘したところで限界があることを感じました。

『今後の再配置の方向性について』

西公民館と西中学校の再配置計画で、ようやく3アイデアが俎上に上りましたが、これらをどのように収斂させていくかという大変な作業を前にして、委員会が解散するというのは何とも残念で、市民の感覚からすれば“これからようやく始まるのになぜ？・・・”という疑問も湧きます。

委員会は、“これは行政のmatterである”と言いますが、今後行政主導で行うとしてサポート的に参画して欲しいという要望（新たな業務依頼として）が仮にあったとしても、どうやらメンバーには積極性が薄い雰囲気があります。

そうなった以上は、行政スタッフの知識とセンスで何が何でも具現化させなければいけないのですが、試金石的な位置付けであるシンボル事業について、3アイデアをどのように収斂させていくのか（収斂できるのか）という過程は非常に興味があるし、ここで失敗すれば後の行程はかなり難しくなるような気がします。

当然反対する人も出てくるとはと思いますが、このアイデアを市民レベルが理解できるまで平易に下ろして、最低限の訴求として再度タウンミーティングにかけるのは必須かと思います。

欲を言えば、アイデアを示した3事業者に対して、市民にも分かるレベルの平易なバージョンを作ってもらいたい気がします。

タウンミーティングについては、自治会役員で占められるような偏重的なものではなく、もっと幅広く意見を聞けるような工夫が必要です。回数よりも内容（中身、密度）が大事で、さらに言えば開催時間を夜の7時から9時までといった「時間ありき」で厳密に区切るのではなく、双方が納得するまで質疑応答を行うことを望みます。

それと、以前、西中学校の教師や生徒には評価を聞くつもりはないという回答がありましたが、生徒経由で保護者にアイデアペーパーを渡し、それを見てもらって理解促進を図るようなこともいいかも知れません。

いずれにしても、通り一遍の情報の提示ではどうも理解は得られないし、その前に市民にとってどういうものかさえもおぼろげなまま推移していくようでは、結果的に頓挫するような気がします。

それと秦野市のインターネットサイトでも、もっと進捗状況がひと目で分かるような工夫をして欲しいです。

現行では、トップページの「市政情報・総合計画」の中で一項目設けてありますが、そうではなく、全市的な位置づけという意味合いを持たせ、かつ市民の誰もが難なく情報を得られるように、トップページのもっと目に付く場所に大きくアイコンを設けて、そこをクリックするだけでダイレクトに進捗状況のページに飛べるようにすれば、市民の意識も“市は本気なんだ”と認識すると思いますし、庁内の理解浸透にも結びつくと思います。

『報酬などについて』

あとこれはかなり驚いたのですが、委員会メンバーに対する報酬があまりにも少ないのでは、という気がしました。

1 回の出席につき税引きで 6, 760 円、交通費も昼食代も自腹ということですが、仮に都心の新宿から秦野までは往復で 1, 300 円、昼食等を差し引くと実質の報酬は 5 千円に満たないこととなり、これではモチベーションが上がるはずがありませんし、メンバーが行政マターを声高に言うのも分かる気がします。

秦野市の支出の切り詰めは分かりますが、お金をかけるところとかけないところのメリハリが大事なのに、こういう専門家の頭脳労働的な部分も切り詰めるのはちょっと問題があるような感じです。

せめて交通費くらいは別途支給してもいいと感じました。

E メンバーについても、意見 1 回につき 10 ポイント、20 ポイントで「地域振興券」1 枚ということですが、この基準に当てはめると、ほとんどの E メンバーはアンケートにしか回答していないと思いますから、地域振興券さえ手にすることができないことになります。

この仕組みは再考した方がいいと思います。

以上、雑駁であります。最終回にあたっての意見です。